

令和5年度(2023年度) 松本美須々ヶ丘高等学校 学校自己評価表(年度当初)

78 長野県松本美須々ヶ丘高等学校

I 教育目標とグランドデザイン 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

学校教育目標	グランドデザイン	総合評価	次年度への課題
1 基礎的知識・技能の習得及び健康・体力の増進 2 自主・自律の精神及び豊かな情操・知性の育成 3 地域との連携による幅広い人間性の涵養 4 民主的で平和な国家・社会を形成する主権者の育成	地域の教育力を生かした多様な学びを実現 「人とつながる、地域とつながる、未来とつながる」		
松本美須々ヶ丘高等学校「3つの方針」			
目指す学校像 地域の教育力を活用した多様な学びを展開し、地域とともに愛され続け、発展していく学校 DP:生徒育成方針 グローバル化が進展する社会の中で自分の可能性を追求しながら、地域社会を支え、未来を創造できる生徒を育てます。 CP:教育課程編成・実施方針 地域の教育力を活用し、多様な学びを取り入れた教育課程を編成・実施します。 AP:生徒募集方針 基本的な生活習慣が身についており、多様な学びや体験活動に意欲を持って取り組む生徒を待っています。			
令和5年度(2023年度) 重点目標 (令和5年度～令和9年度 中期目標)			
(1) 教科の学習と探究的な学びの充実により、生徒一人ひとりが自らの進路と向き合い主体的に学ぶ姿勢を育成する。 (2) 積極的な情報発信等によって地域との接点を広げ、多様な人々とつながりながら学ぶことのできる、開かれた学びの環境づくりを進める。 (3) 相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える共生社会の形成者としての考えを醸成する。 (4) 自主性を重んじる生徒会活動や探究活動によって得られる経験に立脚し、一人ひとりが自らの可能性を最大限に発揮し、他者と協働しながらよりよい社会や新たな価値を生み出していく姿勢を育成する。 (5) 先を見通すことが困難な時代において、生徒の悩みや不安に寄り添い、学校と家庭の連携と、地域人材の活用を強化し、生徒にとって安心安全な学校づくりを進める。			

II 今年度重点目標(部署別) 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目: 自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
教務		①授業や諸行事が円滑に行われるように努めると共に、それに伴う諸問題の調整を行う。	・諸行事の計画は適切であったか。 ・会議の効率化(ペーパーレス化など)が図れたか。			
		②各学年や分掌と密に連絡を取り合う。	・各学年、分掌と連絡を取り、効果的な学校運営が出来たか。			
	(1) (2) (3) (4) (5)	③安心・安全な学校作りに努める。	・防災計画を迅速に立案し、それに基づく安全管理が適切に行われたか。 ・校内の危険箇所の把握に努めることができたか。			
		④「3つの方針」の推進と、状況に応じた見直しを行う。	・地域との連携、体験活動、研修などを設定・実施できたか。			
		⑤ウィズ コロナ、アフター コロナにおける諸課題への対応に努める。	・生徒に不利益とならないよう、関係各署との連携ができたか。			
進路指導	(1) (4)	生徒が自分の能力や適性を的確に把握して、探究活動を通して、科学や地域・国際社会にも目を向けさせ、主体的に自らの生き方を考えて進路を選択できるように、さまざまな機会をとらえて計画的、組織的な指導をする。	・個人面談、LHR、学年集会、進路の日、などの企画運営を通して、生徒が自分について考え、進路意識を高め、進路の選択をする機会や資料を与えることができたか。 ・各学年の進路指導計画を遂行することができたか。			
	(1)	・予習→授業→復習という学習習慣の定着を図る。 ・ClassroomやClassi、ロイロノートなどの活用方法を研究し活用を促進することで、生徒の家庭での学習の補助をする。	・平日の家庭学習時間1時間30分を達成できたか。 ・ClassroomやClassi、ロイロノートなどを利用した動画配信などを生徒に活用させることができたか。			
	(1) (5)	生徒の進路選択にかかわる情報や学習成績と模擬試験の結果などを職員間で共有し、家庭と連携を取りながら教科や学年に助言と協力を求める。	・模擬試験の結果を職員間で共有し、教科や学年からの助言を生徒にフィードバックすることができたか。			
	(1) (2) (3)	いかなる環境下においても学びを止めさせないために進路に関わる情報と資料を収集し、生徒や保護者及び職員に正確に発信するとともに、家庭と協働し生徒の学習面、生活面、精神面の支援をする。	・各学年の学年通信で情報を発信したか。 ・必要に応じて職員会やマメールを使った発信をしたか。			

部	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
生徒指導		①日常生活において、生徒・職員を問わず気持ちよい挨拶ができる。また、交通ルールの遵守、交通マナーの徹底、ヘルメットの着用の推進など、安全意識を高める。	①社会や学校のルールを再度確認させるとともに、これを遵守させる指導ができたか。自転車ヘルメットの着用を推進できたか。生徒が事故を身近に感じ、被害者にも加害者にもならないための交通安全指導ができたか。			
		②生徒との面談機会を増やして生徒の様子を細かく観察し、変化の予兆をとらえる。マメールを発信し、家庭との連携を密にして、信頼関係を築く。	②HR指導、頭髮指導、立ち番指導、巡視指導、挨拶運動などを実施できたか。また、匿名のアンケートを用いて生徒・家庭の意見に耳を傾け、的確に対応できたか。			
		③職員があらゆるチャンネルを駆使して、生徒の小さな変化にも気づき、情報を共有し、他部署と連携して初期対応を適切に行い、いじめや体罰のない学校づくりを進める。	③各学年会をはじめ、関係機関と緊密に情報共有し指導できたか。特にSNSの使い方と成人年齢が18歳に引き下げられたことについて、生徒に注意喚起し、適切に指導できたか。			
生徒会		①他者と協力して諸問題を解決しようとする主体的、実践的な姿勢を育む。	・主体的、実践的に取り組ませることができたか。			
		②集団や社会の一員としての自覚を深め、保護者・地域との連携を図る。	・保護者・地域との積極的な連携が図れたか。			
	(2) (3) (4) (5)	③健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を推進する。	・健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を実現できたか。			
		④相互に尊重し、友情を深めると共に、規律を遵守し共同生活の発展に尽くす姿勢を涵養する。	・多角的視野を持ち、他者を尊重することのできる人材を育成できたか。			
		⑤ポストコロナに対応したコロナウイルス感染防止対策をしながら、生徒が前向きに取り組み、新しい生徒会活動を作り上げていけるよう支援していく。	・新しい生徒会活動の構築に向け、適切な支援ができたか。			
清美		①清美委員会と協力し、ごみの分別・可燃ごみの削減のために生徒自らが主体的・意欲的に取り組む姿勢を育成する。	・資源ごみの分別徹底により、可燃ごみの削減ができたか。			
		②職員・生徒の清掃に対する意識を高め、清潔で気持ちのよい学習環境を整えられるよう、適切な清掃活動を計画する。	・ごみ収集、大掃除、ワックスがけ、カーテン交換、モップ交換などの清掃計画は適切であったか。			
図書視聴覚		①生徒の主体的、意欲的な学びに役立つ図書館の蔵書や視聴覚教材・機器等を部で検討し、備える。	・生徒の主体的、意欲的な学びを支援する教材・機器などを備えることができたか。			
	(2) (4) (6)	②図書館資料やICT機器を用いた授業における活用方法の研究を進める。	・授業における図書館資料やICT機器活用に関する研修に参加する等、研究を進めることができたか。			
		③ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携する。	・ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携できたか。			
保健教育相談		①生徒が様々な活動に、主体的・意欲的に取り組むために、生徒の心身の健康を維持できるよう、支援体制を整える。	・生徒の心身の健康を維持するために、生徒の状況を把握、情報共有し、チーム支援ができたか。			
	(2) (3) (5)	②安心安全な学校づくりのために、早期に生徒の状況を把握する。様々な手段を通じて悩みのある生徒を早期に把握し、実態に応じた対応を行う。また家庭や外部機関とも連携する。	・問題を抱えている生徒の悩みに寄り添い、家庭や外部機関と連携し、支援につなげることができたか。			
		③新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの感染症に対して、衛生面の管理や情報の提供、校内での感染予防に努める。	・各種感染症対策として衛生面の管理、情報提供を適宜行うことができたか。			
渉外		①学校と保護者、同窓会と連携を図り、PTA活動の企画・運営を行う。	・保護者の意見や要望について、関係部署での検討を依頼し、学校運営に役立てることが出来たか。			
		②PTA総会・理事評議員会をポストコロナに対応した形で、4年ぶりに開催する。また、地区PTAは昨年度役員会での承認を経て、廃止に向けて準備を進める。	・ポストコロナに対応した形で、PTA活動の再開ができたか。			
探究指導		①「総合的な探究の時間」を充実させるため、研究を重ね、深い学びの実現を目指す。	生徒の主体性を引き出す工夫をしたか。きめ細かな指導に向けた改善を行ったか。			
	(1) (2) (3) (5)	②多様な学びを展開するため、地域との連携を推進する。	テーマや課題に関する情報の提供や人材の紹介などの機会を増やせたか。これまでの連携の取り組みをさらに充実させることができたか。連携先を開拓できたか。			
		③キャリア教育を推進し、生徒の人生観・職業観を育み、個々の進路実現を支援する。	生徒の社会活動への参加を促進させることができたか。多様な学びの場を提供することができたか。生徒の進路実現に貢献したか。			

学年	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
1 学 年		①高校生としての基本的な生活習慣(時間厳守・挨拶・掃除)を確立し、活力ある、けじめのある高校生活を送る。	・時間厳守・挨拶・清掃等の基本的な生活習慣が身についたか。			
		②日々の学習内容・学習態度・学習方法を振り返り、基礎学力の定着をはかるよう指導する。 ・平日及び週末課題を課し、家庭学習習慣の確立をはかる。 ・学年独自の『学習の手引き』を作成し、学習方法のアドバイスを行う。	・基礎学力の定着、家庭学習の習慣が定着したか。			
	(1) (2) (3) (4) (6)	③2年次に向け進路実現のための文理選択を考えさせる。 ・上級学校見学などの進路研修や総合的な探究の時間、LHRを通じて、自分の進路について考える。また、早い段階で、学部学科を視野に入れながら、文理選択を行い、より自分の進路を絞り込む。 ・ライフプランの作成を通して、将来の職業について考えさせる。	・早い段階での学部学科を視野に入れながら、文理選択ができたか。			
		・探究学習では、自分自身に目を向け、自分の興味・関心があることを追及させる。 ・課題テーマを設定し、情報収集、分析・整理、表現・まとめ、振り返りといった一連のプロセスを学ばせる。	自分に興味関心があることや探究のプロセスが理解できたか。			
2 学 年	(1)	①基本的な生活習慣を確立した上で、自己の進路希望の実現に向けて計画的な学習を身につけるよう指導する。同時に部活動等の課外活動との両立を目指し、そのための自己マネジメント力の向上を図る。	・計画性を持った生活スタイルを立て、充実した学習活動および部活動等ができるよう指導できたか。			
	(2) (3)	②地域に関心を持ち、探究型学習の内容を計画性を持って進め、身の回りにある様々な問題を意識するように導く。	・「総合的な探究の時間」を有効に活用し、身の回りにある様々な問題を意識できたか。			
	(2) (5)	③学年通信・学級通信等も含め積極的に学校からの情報を発信し、家庭と協力することで生徒の安心安全な生活をサポートする。	・家庭と連絡を密にし、生徒個々の状態を把握することができたか。			
	(4)	④自己を大切にするとともに他者を理解尊重する姿勢を養う。	・自己肯定感を醸成し、多様な価値観を持つ他者に対する配慮ができるよう導けたか。			
	(1)	⑤ICT機器やネットの適切な利用を促し、これからの情報化社会で生活していく力を養う。	・SNSやWebの良否を理解し、タブレットやスマホを適正に利用できたか。			
3 学 年	(1) (4)	①大学入試共通テストをはじめ、さまざまな入試、進路情報を提供しながら、生徒一人ひとりの進路実現の具体的なプランと実践を支援していく。 ②探究型学習を通して、自分の進路を考察し、積極的に社会を形成する意識を育てる。	・大学入試をはじめ進路情報について共有出来たか。 ・生徒個々の進路希望について保護者とも相談しながら学年全体で対応出来たか。 ・「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。			
	(3) (4)	③生徒会活動やクラブ活動など学校生活において自主性を育みながら、他者を尊重し協働する精神を養う。	・様々な場面で日頃の活動を見守りながら、他者理解や多様性を尊重する心の醸成を手助けできたか。			
	(2) (5)	④Classi、GoogleClassroomなどを日常で有効活用することで家庭との連絡を密にし、生徒が安心安全に学習活動に取り組み、充実した高校生活を送ることができるようサポートする。	・日頃のSHRや授業、また学年・学級通信配信など家庭との連携に有効活用できたか。 ・クラスを中心として学年、学校全体で生徒の支援が出来たか。			

教科	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
国語	(1) (3) (4)	①言語教材、その他データ資料から正確に内容を捉え、現代社会の情勢を知り、我がこととして思考する力を育成する。	・目標達成のために資する適切な教材を設定できたか。 ・語彙力向上のための小テストを有効に活用できたか。			
		②生徒同士のコミュニケーションを活発にし、自分の意見を発信する力、他者の意見を聞くことによる多様な考え方を受け入れ柔軟に思考する力を育成する。	・生徒間コミュニケーションを図れる授業、記述レポートなどを組み込んだ授業展開ができたか。			
		③口頭(プレゼンテーション)、文章ともに、自らの考えを論理的に他者に伝えるように表現する力を育成する。	・生徒の進路に沿った表現の指導ができたか。			
		④古典文化と現代社会とのつながりを示し、幅広く深い教養による豊かな人間性を育むとともに、生徒の探究心を刺激するような授業展開を研究する。	・生徒の探究心を刺激するような授業研究のために、教員間で情報交換や授業参観ができたか。			
地歴公民		①広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会を形成する主権者を育成する。	・主権者意識を高める学習活動を行えたか。			
		②地球的課題に関する知識を身に付け、それらを解決しようとする態度、他国や他文化を理解し尊重していく態度を身につけさせる。	・ディスカッションやレポート作成、生徒による自己評価、定期考査などを通して知識の定着と理解が図れたか。			
		③生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる授業について研究する。	・授業改善を行えたか。			
		④生徒の学びの幅を広げるため、ICT機器やオンライン学習システムなどを活用して新しい指導方法を研究する。	・新しい指導方法を導入できたか。			
数学	(1) (2) (3) (4)	①基礎事項の定着を図り、思考するための土台を築くことができたか。	・単元テストや確認テスト等を定期的実施して、個々の習得状況を確認することができたか。			
		②ICTの利用を促進し、図やグラフ等を視覚に訴えることで、生徒の理解力を深める。また、ICTを活用した授業展開を研究する。	・ICTの効果的な活用について意見交換ができたか。また、授業の質の向上を図ることができたか。			
		③論理的に思考したことを「言語」によって表現できる能力を育成する。	・授業や提出課題、考査等で、生徒が論理的に記述をすることや発言をすることができるよう力を身につけるよう支援できたか。			
理科		①自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養うと共に、理解を深める。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする力が身につけられたか。加えて、理解を深められたか。			
		②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。また、そのために必要な技能を身につける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身につけられたか。さらに、そのために必要な技能が身についたか。			
		③授業におけるICT機器や各種アプリケーション(ロイロノート、Google等)の効果的な活用方法について、教科内外の授業相互視察等とおして、研究を推進する。	授業におけるICT機器や各種アプリケーション(ロイロノート、Google等)の効果的な活用方法について、教科内外の授業相互視察等とおして、研究を推進できたか。			
		④教科内の会議や報告・連絡・相談について、Teamsを適切に活用できるよう、実践と研究を推進し、働き方の改善に努める。	教科内の会議や報告・連絡・相談について、Teamsを適切に活用できるよう、実践と研究を推進できたか。			

教科	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項 目 自 己 評 価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
保健 体育	(1) (3) (4)	・運動に関する知識を深め、技能・体力の向上を図り、運動の楽しさや喜びを味わい、仲間と協力する姿勢を身につける。また、生涯スポーツにつながる資質や能力を育成する。 ・コロナ制限解除につき十分な運動量の確保をする。	・適切な服装、時間やルール等を遵守させられたか。 ・集団行動の意義や、自分及び仲間の安全、仲間との協力や運動の楽しさを実感させられたか。			
		・健康の保持増進のための知識や実践力を身につけ、実生活において活用できる考えを育て、明るく豊かな活力のある生活を営む態度を育てる。	・身近な話題に触れることで、興味関心を引き出し、日常生活及び今後の実践につながるような内容の学びであったか。			
芸術		①芸術の授業を通して、生徒が自ら目標を設定し、意欲的に自己表現する姿勢を育成する。	・生徒が様々な芸術文化に興味関心を持ち、意欲的に取り組める教材設定ができたか。			
		②国内外の様々な芸術文化に関心を持ち、それぞれの芸術文化を尊重する姿勢を育成する。	・生徒個々の能力を見極め、意欲的に課題に取り組むための生徒支援ができたか。			
		③様々な表現活動において、自らが積極的に活動することはもとより、他者の表現を尊重する心を育み、共同して表現活動を行うための協調性を育成する。	・グループ活動における共同作業をスムーズかつ有意義なものとするためのアドバイスなど、生徒支援ができたか。			
外国語		①英語の基礎となる単語、熟語、構文、文法などを定着させる。	①生徒の実態や目標に応じて適切な教材や学習方法を示し、学習定着の工夫ができたか。			
		②グループ学習やプレゼンテーション活動を通して、生徒自身の意見を英語で発信する能力を育成する。	②生徒に意見を発信させる機会や課題を与え、適切な助言や指導ができたか。			
		③英語検定などを活用し生徒の能動的な活動を通じて、4技能とともに思考力やコミュニケーション能力を育成する。	③知識定着に加え言語活動を多く取り入れ、英語検定などを活用し英語の運用能力を総合的に育成することができたか。			
家庭	(1) (2) (3)	①急速に変化する社会の状況に目を向け、多様化する家族・家庭や生活様式について理解し、自らの生き方をデザインする姿勢を育成する。	・社会の出来事に興味を持たせ、現状を理解し、自分の生活と関連づけて考えさせることができたか。			
		②高校在学中に成年年齢を迎え、社会がより身近なものとなることから、適切な意思決定や消費行動について自ら考え、行動できる態度を養う。	・消費をめぐる様々な問題に対応するために、契約の重要性や消費者保護のしくみについて理解を深め、消費者問題に対応するための適切な指導、助言ができたか。			
		③「持続可能な社会」の実現に向けて、家庭生活や地域社会へ関心をもち、自ら課題を発見し、解決していくための知識や実践力を身につける。	・学習で得た知識・技術を活用し、生活を巡る様々な問題を意識させ、課題解決に向けた学習活動を充実させることができたか。			
		④ICT機器を活用した教材作成のため、校内での授業見学や、Webでの研修を通して、研究を深める。	・ICT機器を活用した教材作成を通して、生徒が主体的に学習する環境を整備することができたか。			
情報	(1) (3) (5)	①LifeisTechなど最新の情報技術を利用して情報技術、情報モラルについての基礎基本を定着させる。	・情報に関する基礎的な知識理解ができたか。			
		②ワード、エクセル、パワーポイントの基礎的操作を習得させる。	・基礎的な情報リテラシー技能の習得ができたか。			
		③LifeisTech社とも協力し、YouTubeやGooglemeetなどを導入した授業の実践についてWeb会議、研修を積むとともに実践に活かす。	・ICTを活用してLifeisTech社より配信された動画、Web授業等を校内や家庭で受信でき、効果的に有効活用できたか。			